

R6年度後期

学校評価のまとめ

『「教育課程全般」についての課題点や改善点、継続したいこと』の回答一覧	
テストと行事が近くなりすぎないとうれしいです。	R7年間計画を組む際に配慮します。
前年度の教育課程編成の際に話題に上がっていなかった内容が急に変更になったことがあった。もう少し、職員会議の中で検討するなどして変更した方が良かった。	運営委員会での検討内容が皆さんにうまく伝わっておらず、申し訳ありませんでした。世の中の動向を鑑み、熟議をしておりますので、御理解下さい。

『「教科指導（含む道徳・学活）」についての課題点や改善点、継続したいこと』の回答一覧

『(ア)「教科でつきたい力」の共有について』の回答一覧

6 - (ア) 「教科でつきたい力」の共有について →結果をダウンロードする

とともできている	3/35	8%
できている	27/35	77%
あまりできていない	5/35	14%
ほとんどできていない	0/35	0%
(選択なし)		0

※回答者の名前は表示されていません。

『(イ) 一貫性のある「授業の流れ」について』の回答一覧

6 - (イ) 一貫性のある「授業の流れ」について →結果をダウンロードする

とても意識している	6/35	17%
意識している	28/35	80%
意識していない	1/35	2%
ほとんど意識していない	0/35	0%
(選択なし)		0

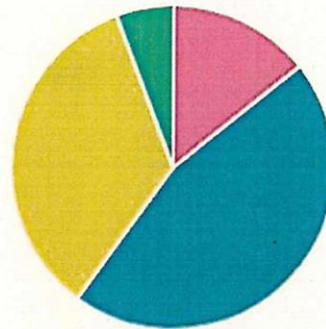
※回答者の名前は表示されていません。

『(ウ) やさしい日本語の利用について』の回答一覧

6 - (ウ) やさしい日本語の利用について →結果をダウンロードする

■ 常に使っている	5/35	14%
■ 使っている	16/35	45%
■ あまり使っていない	12/35	34%
■ ほとんど使っていない	2/35	5%
(選択なし)		0

※回答者の名前は表示されていません。

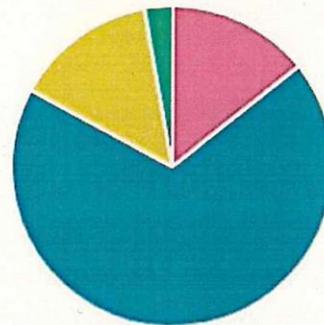


『(エ) 道徳指導・道徳』の回答一覧

6 - (エ) 道徳指導・道徳 →結果をダウンロードする

■ よどみなくすすめている	5/35	14%
■すすめている	24/35	68%
■ 迷いながらもすすめている	5/35	14%
■ 先輩の指導のもとすすめている	1/35	2%
(選択なし)		0

※回答者の名前は表示されていません。

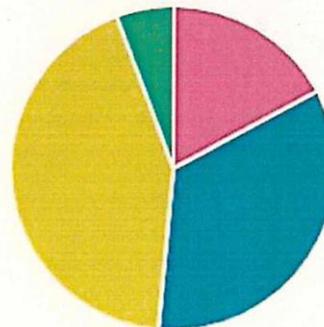


『(オ) ICTについて』の回答一覧

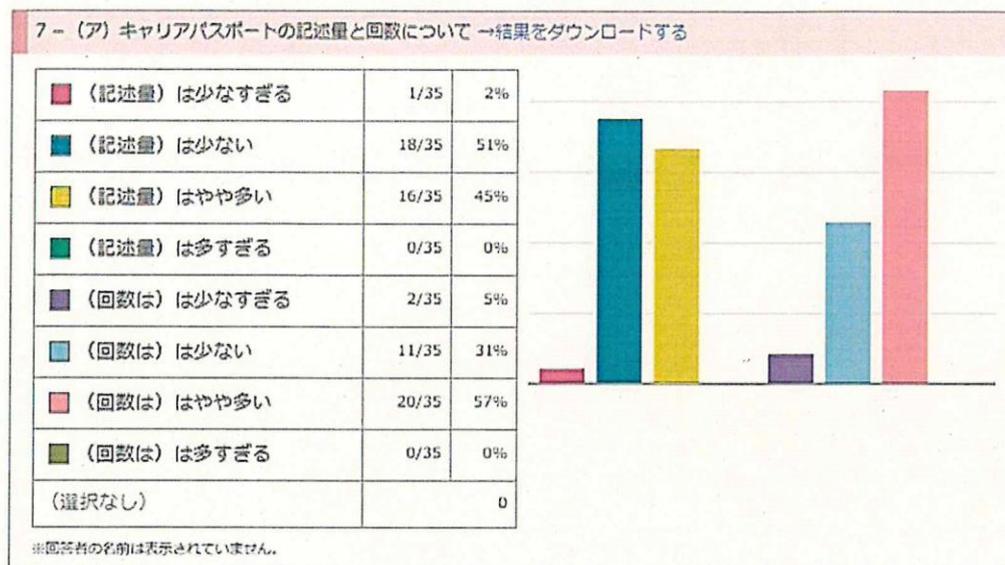
6 - (オ) ICTについて →結果をダウンロードする

■ 毎時間つかっている	6/35	17%
■ よく使っている	12/35	34%
■ あまり使っていない	15/35	42%
■ ほとんど使っていない	2/35	5%
(選択なし)		0

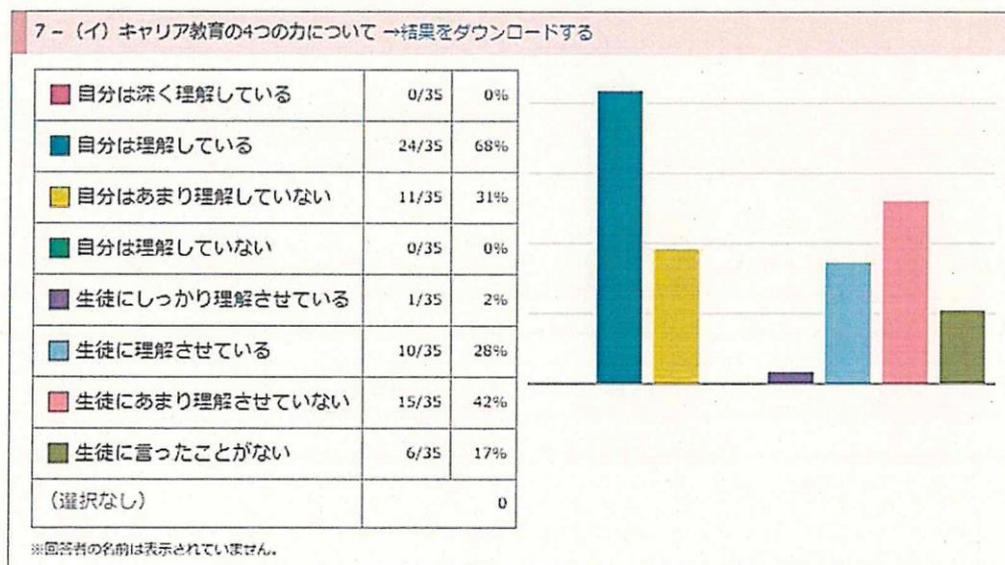
※回答者の名前は表示されていません。



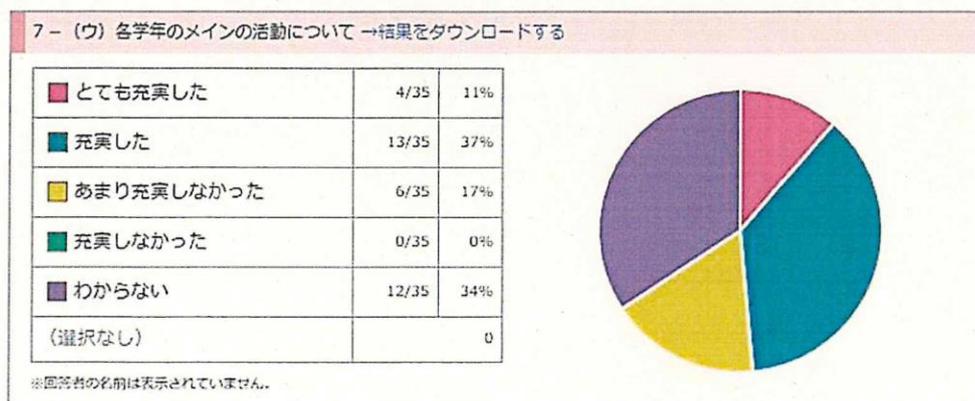
『(ア) キャリアパスポートの記述量と回数について』の回答一覧



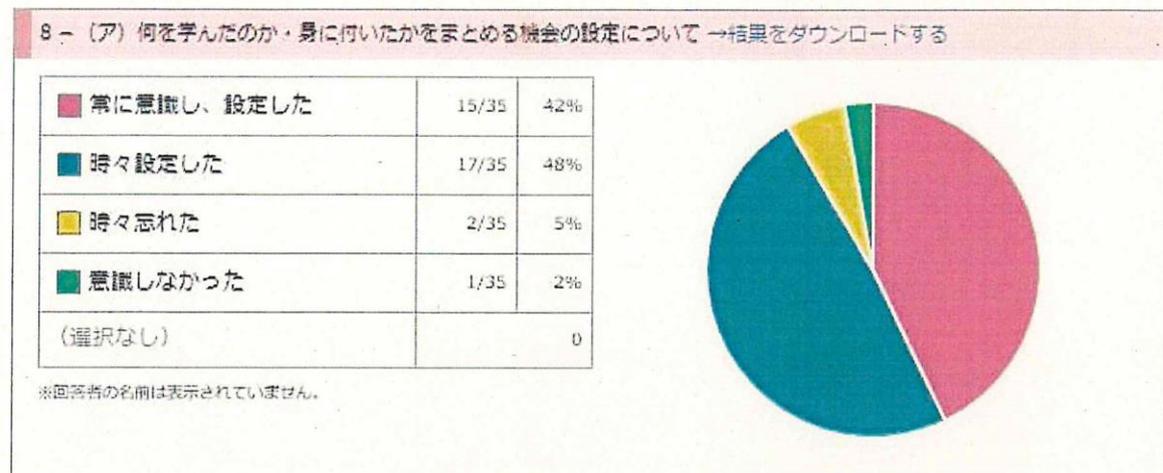
『(イ) キャリア教育の4つの力について』の回答一覧



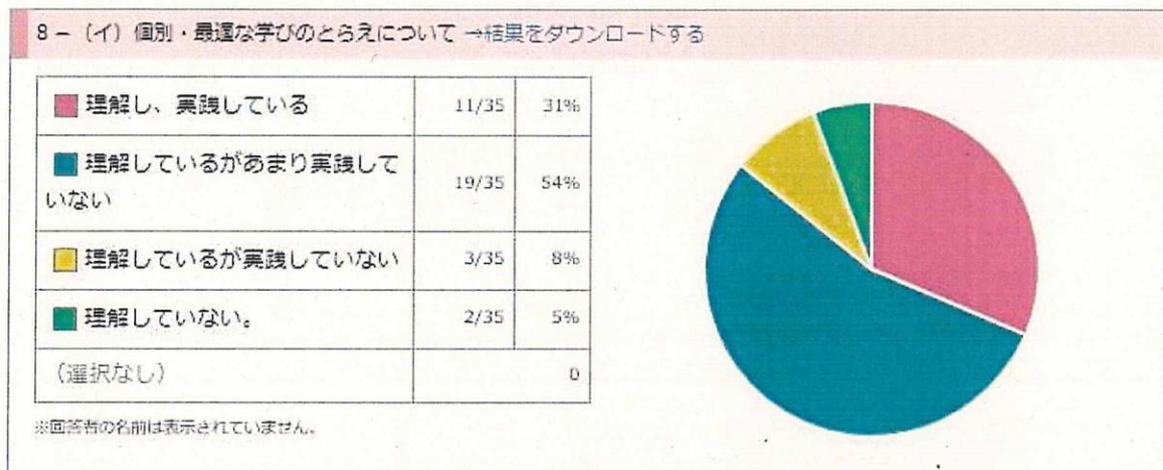
『(ウ) 各学年のメインの活動について』の回答一覧



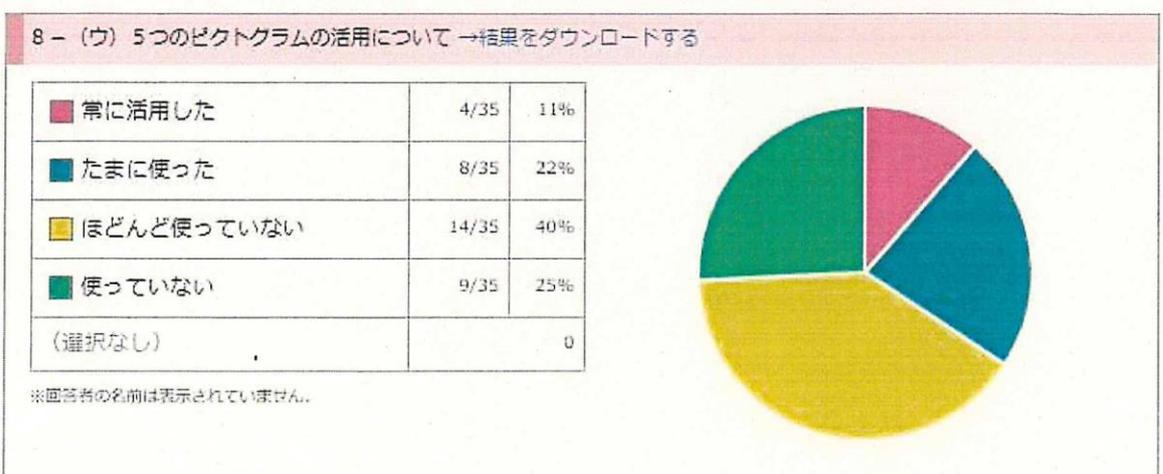
『(ア) 何を学んだのか・身に付いたかをまとめる機会の設定について』の回答一覧



『(イ) 個別・最適な学びのとらえについて』の回答一覧



『(ウ) 5つのピクトグラムの活用について』の回答一覧



『「18PTA活動」「19コミスク」についての課題点や改善点、継続したいこと』の回答一覧	
<p>PTA に加入することや役員になることのメリットをアピールしていかないと加入者は減る一方で役員決めもどんどん難しくなると思います。役員は思い切って立候補だけにし、県下一斉補導や文化発表会などで人が足りないならコミスクで補うことも考えるといいと思います。</p> <p>コミスクはよくわからないという声も聞かれますが、来年度は2年目になるので保護者からの質問に先生方が答えられるようにしましょう。総務課から時々配信される「コミュニティ・スクール通信」も読んでください。</p>	<p>PTAには、見えないところで様々な支援をいただいています。地域ための学校です。感謝ですね。</p>
<p>PTA活動の各委員会の活動内容の精選をすると良いと思います。</p>	
<p>職場体験にコミスクがどこまで関わってくるのか。コロナによって職場体験の是非が見直され、縮小傾向になると思ったのに、また再開された。コミスクが関わってくることで、コロナ前よりも複雑になるのではないかという不安がある。</p>	<p>職場体験は2年の総学の根幹となる活動です。再開されたことは嬉しいことです。今年度をたたき台に検討しましょう。特活部で検討します。</p>

今後の改善策

学校評価（保護者）

1・2学期の「肯定意見」の比較

問	1学期の「とてもそう思う」	2学期の「とてもそう思う」	比較	1学期の「そう思う」	2学期の「そう思う」	比較	1学期の肯定的な意見の合計	2学期の肯定的な意見の合計	比較
問1	27%	22%	-5%	59%	64%	4%	86%	86%	-1%
問2	66%	63%	-3%	24%	26%	2%	90%	89%	-1%
問3	13%	20%	7%	38%	32%	-5%	51%	52%	2%
問4	14%	13%	-1%	51%	50%	-1%	64%	63%	-1%
問5	24%	22%	-2%	56%	58%	3%	80%	80%	0%
問6	14%	17%	3%	67%	63%	-4%	82%	81%	-1%
問7	11%	11%	0%	59%	59%	0%	70%	70%	0%
問8	9%	11%	2%	49%	58%	9%	58%	69%	11%
問9	12%	9%	-2%	56%	56%	0%	68%	65%	-2%
問10	9%	9%	0%	51%	49%	-2%	60%	59%	-2%
問11	9%	10%	1%	50%	48%	-3%	59%	57%	-2%
問12	8%	10%	2%	50%	48%	-2%	58%	58%	0%
問13	12%	11%	-1%	62%	60%	-2%	73%	71%	-2%
問14	10%	10%	0%	62%	59%	-3%	72%	69%	-3%
問15	23%	24%	0%	66%	62%	-4%	90%	86%	-3%
問16	9%	10%	0%	54%	56%	1%	64%	65%	2%
問17	18%	18%	0%	69%	70%	1%	87%	88%	1%
問18	20%	17%	-3%	68%	69%	1%	88%	85%	-2%
問19	9%	9%	0%	53%	51%	-2%	62%	60%	-2%
問20	9%	11%	1%	56%	57%	1%	66%	68%	2%

・・・高い上昇 ・・・下降 ・・・60%以下の項目

↑：本校のボランティア活動は、その功績が認められ表彰を受けるなど、活躍が目覚ましい。校内でも積極的な呼びかけがされており、今後の継続的な活動が見込める。
 ↓：降下した項目の中でも「問14」に注目したい。道徳の授業ではSST（ソーシャルスキルトレーニング）を取り入れ、改善や充実を図っているが、数値的には低い結果となった。規範意識は涵養に時間がかかるので、今後も継続的に道徳教育の充実を図っていききたい。
 ※：学習面に関しては50%代と決して高くない数値である。普段の授業を充実させたり、宿題や課題の声掛けや見取りをきちんと行い、生徒の学力の向上を目指したい。

「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組状況・目標達成状況報告 浜松市立開成中学校

1 ねらい

「学校いじめ防止基本方針」に基づき、校内いじめ対策委員会を設置しています。校内いじめ対策委員会では、「いじめ見逃しゼロ」を目標として取り組みました。

2 実践

○校内いじめ対策委員会

参加メンバー：校長、教頭、主幹教諭、生徒指導主事、各学年生活担当、養護教諭、外国人担当、発達支援コーディネーター、（学年主任、担任、部活動顧問、スクールソーシャルワーカー（SSW）、スクールカウンセラー（SC））

校内いじめ対策委員会は、毎月第1月曜日に実施しています。また、臨時で行うこともあります。この会では、いじめを認知し、その解消に向けた方針を決定するとともに、指導後の被害生徒、加害生徒の様子を共有しています。また、週に1回、生活部会を実施して情報を共有し、学年ごとの会議において情報伝達をしています。

OSC、SSWの活用、外部機関との連携

いじめにより悩みを抱えた生徒が、SCのもとで、教育相談を受ける体制が整っています。また、生徒だけでなく、保護者とのカウンセリングも行い、大きな教育効果を上げています。

学級担任や関係職員、SSW等が家庭訪問を行っています。また、教育委員会、校外まなびの教室、警察、児童相談所、医療機関、民間施設と協力しています。

3 成果と課題

令和7年2月12日現在、いじめ認知件数は102件（解消31件）でした（令和5年度：60件、令和4年度：37件、令和3年度：24件、令和2年度：7件）。発見の過程として多かったものは、本人・保護者からの訴え、アンケートでした。

いじめ認知件数が増加したことは、いじめを訴えやすい環境が整ってきた成果だと考えています。また、学期に1回「いじめアンケート」を行い、全生徒対象にアンケートを踏まえた「いじめ個人面談」を実施したことも効果的だったとらえています。

昨今、SNS上のトラブルが急増しています。SNS上の誹謗中傷が校内でのいじめと関係していると考えられるケースがありました。生徒・保護者への危険性や健全な使い方の周知の必要性を感じています。

今年度は、新規に年間を通したソーシャルスキルトレーニング、ネット依存トラブル防止プログラムを実施しました。来年度も継続したいと考えています。

「学校アンケート」より集計と昨年度との比較

R5とR6の2学期の「肯定意見」の比較		昨年度2学期 の肯定的な 意見の合計	本年度2学期 の肯定的な 意見の合計	比較	
○保護者から寄せられた「学校アンケート」の中での 「4:とてもそう思う」と「3:そう思う」の合算の比較より					
問13	学校は、生徒が落ち着いて学ぶことができる環境である。	89%	71%	-18%	↓
問18	学校は、家庭訪問や三者面談、教育相談等、相談しやすい環境が整えられている。	91%	85%	-6%	↓
問19	学校は、生徒一人一人の居場所づくりや互いに認め合う雰囲気づくりを通して、いじめが起きにくい環境づくりに努めている。	83%	60%	-23%	↓
問20	学校は、生徒へのアンケートなどを通して、いじめの早期発見や把握に努めている。	87%	68%	-19%	↓

↓・・・15%以上の下降

↓・・・15%以下の下降

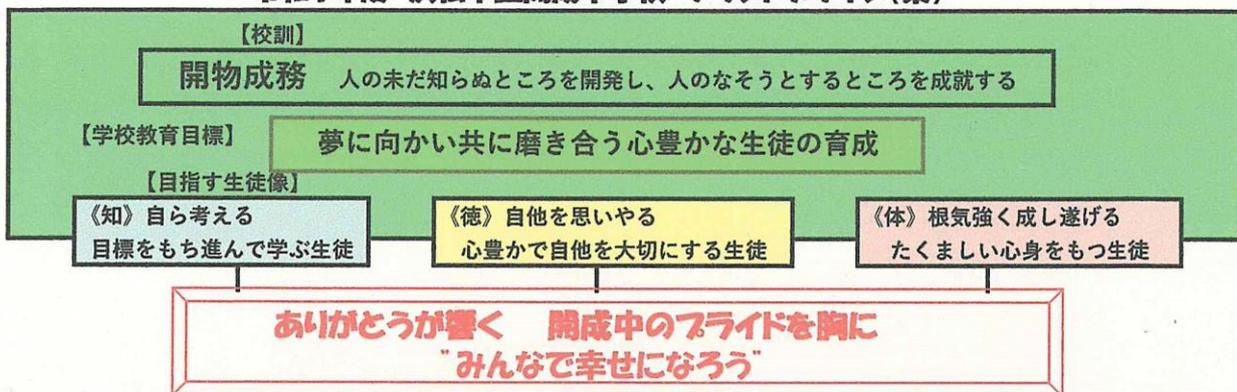
大きく下降した項目の中でも「問19」に注目したい。質問文中「～いじめが起きにくい環境づくり～」からは、学校が積極的に「いじめ認知」をし、密に保護者へ事実関係の報告をした。そのため、「かえっていじめが増えた」との認識となり、このような数値になったと考えられる。保護者の認識の中の「いじめ」と法的根拠のある「いじめ」の認識の差がこの結果を生んでいると考える。しかし、本校の実情では「いじめ0」にはなっていない。今後も引き続き、積極的ないじめ認知を行っていききたい。

また、「いじめ認知」を積極的に行い、関係生徒への丁寧な聞き取りや指導をしているので、保護者には大きく「落ち着きがない」「正しい判断力がない」と認識していることが考えられる。

本校では来年度も引き続き、道徳や学活の授業で、SST（ソーシャルスキルトレーニング）を取り入れ、生徒の規範意識の向上やいじめに対する深い理解を図っていく。しかし、規範意識は涵養に時間がかかることが予想されるため、今後も積極的な生徒指導を行うためにも、充実した生徒指導体制の構築が望まれる。

改善策

令和7年度 浜松市立開成中学校 グランドデザイン(案)



浜松市第4次計画多様性の包摂性 … 授業・評価の構築、学校行事、地域連携

授業が分かる 80%以上 家庭学習1時間以上 60%以上 授業で話を聞く 80%以上 授業でもっと知りたい 70%以上	学校が楽しい 90%以上 安心できる学級 80%以上 さわやかな挨拶 80%以上 夢や希望を持つ 80%以上	学校欠席率/遅刻率 前年より減少 朝食を食べて登校 100% 部活動が楽しい 90%以上
○自分自身の考え・意見をもつ ○授業開始10分導入時の工夫 ○生活・社会につながる授業目標の設定 ○確認テストや学習相談会の実施 ○ICTを活用した授業 ○家庭学習の習慣化 ○発達支援教育充実のための研修	○生徒に寄り添う指導 ○SSTをベースにした いじめ0へ向けた取り組み ○道徳科授業の工夫と充実 ○「ありがとう」で感謝を表す ○行事へのこだわりとテーマを おさえた指導・運営 ○地域に貢献できる生徒の育成	○運動の楽しさの実感と体力向上を目指す体育学習 ○基本的な生活習慣の確立(早寝早起き・朝食等) ○部活動への積極的な参加 ○防災教育の推進…近隣校や福祉の連携 ○カウンセラー、SSW、社会協議会等との連携・活用

今年度の重点

"準備"

I 確かな学力の育成

"基礎基本の重視"

- ①授業開始10分導入時の工夫…魅力ある導入と終末の一貫性 ・教員相互参観
- ②ICTの効果的な活用…教員のスキルアップ→「授業」「行事」における積極的活用
- ③ユニバーサルな授業展開…評価の在り方研修・ゆずりは学級との連携
- ④年間指導計画の作成

II 自立・自律に向けた指導

"自分で考え行動できる"

- ①生徒が前面に立つ主体的な活動
- ②外国人指導の充実…ユニバーサルな視点での指導・チームでの指導
- ③いじめ0に向けた活動…教師の側から、生徒の側から
- ④部活動地域展開に向けた準備

III 地域との連携

"地域と学校がWIN-WIN"

- ①ボランティア活動の推進…本校の良さに 生徒の称揚・地域で学ぶ
- ②CSの活用…学校運営方針・職場体験・ボランティア・部活動地域展開に向けた協議
- ③校舎大規模改修計画の共有化…発達学級・部活動・外国人初期適応教室設置など

IV 危機管理体制の充実

"生徒、教員、地域の方々の健康維持・増進が第一"

- ①教師・生徒・保護者・地域との信頼感の醸成 PTAの在り方研究
- ②感染症・天災に備える⇒防災教育 さくら連絡網 ICTのスキルアップ
- ③報・連・走・相⇒まずは話を聞く 小さなことこそ丁寧に対処する

令和6年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立（開成中）学校運営協議会長

<本年度の目標>

学校運営方針を理解し、一歩ずつ進めよう。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- ・今年度の重点のうち、地域との連携について「職場体験」「ボランティア」については協議して生徒の活動に結びつけた。
- ・学校が目指す生徒像を理解し、学校に対する評価の低い内容について、先生方の指導のほかに、どうすれば良いか協議された。
- ・学校教育目標「夢に向かい共に磨き合う心豊かな生徒の育成」に向けて協議するために、疑問点等は出し合ってグランドデザインを良く理解するところから始めることができた。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- ・学校が課題だと考えている点に加え、委員が課題だと考えている点について意見を出し合い、教育活動の充実のための優先順位について認識の擦り合わせができたと考えている。
- ・アンケート、データの資料をもとに校長はじめ先生方から委員の積極的な意見交換は、出来ている。
- ・ICTの活用に関する課題は共有し、意見を出し合ったり職場体験に繋げたりする試みができたのではないかと。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- ・さくら連絡網を使用し、協議会に参加出なかった者を含め速やかに情報提供が出来た。
- ・アンケート結果、データ収集、蓄積が適切に出来ていると感じる。配布されたデータをもとに校長、先生が考えを述べて、委員も積極的に議論出来ていた。
- ・開成中ホームページに協議資料、議事録が掲載されており、協議会の内容は「見える化」している。

<評価項目4> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- ・今年度は学校を理解し一歩ずつ進めることが目標だったが、来年度は理解した学校像に則した学校や地域の連携を探れると良いと考えている。
- ・初年度を終えて、協議会が多少理解できたので、生徒や地域の取組を把握し、学校運営の改善、及び生徒の教育活動の充実を図る。
- ・今年度の目標で、運営方針を理解する方向には進んでいるので、来年度は地域・学校・PTAの協力・連携するためのより良い形、方法の形成を進めていけたらいいのではないかと思います。